自主学習のすすめ <小学校　家庭科(例)>

１　タイトル

第６学年　　日常生活で目にする様々な表示やマークについて調べよう　～衣生活編～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（※第５学年でも可能）

２　ねらい

　・衣服の取り扱い表示について調べ、衣服に応じた洗濯の仕方があることを理解する。



新表示

旧表示

３　準備物

　　・自分の着用している衣服

４　活動の流れ・手順

1. 衣服についている新表示を探す。
2. 新表示の衣服の取り扱い表示の５つの基本記号と比べながら､衣服についている表示を記入する。
3. 記号に追記されている数字や記号の意味を教科書やインターネット等で調べて、ノートにまとめる。
4. 調べた取り扱い表示を踏まえて、実際に洗濯してみてもよい。（手洗いでも洗濯機でも可）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 洗濯の  手順 | 洗う | しぼる | 干す | 取りこむ・たたむかたづける | その他  （クリーニング） |
| 新表示  ５つの  基本記号 | ・洗濯の仕方  ・漂白の仕方 | ※新表示には、記号はない。必要に応じて用語で付記されている。 | ・乾燥機や干し方 | ・アイロンのかけ方 |  |
| ＜例＞  お気に入りのＴシャツ |  |  |  |  |  |
| 付いている数字や記号の意味 | ・洗濯の液温は30℃までを限度とする  ・洗濯機で弱い洗濯ができる  ・漂白剤の使用禁止 |  | ・日陰で干す  ・平干し  ・タンブル乾燥禁  　止 | ・150℃を限度にアイロン仕上げができる | ・ドライクリーニングできる  （パークロロエチレン及び石油系溶剤による） |

　　　　※　児童の課題意識によって、季節ごとの衣服による違いや衣服の素材による違い等、複数の衣服の調査を行う。

引用　日本産業規格JIS　L0001（繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法）

＜調べてみて分かったこと・考えたことをまとめるときの観点例＞

1. 新表示と旧表示（日本だけで使っていた表示）と比べて、同じことや違うことはどのようなことだろう。

（書き方の例）

同じこと・・・数字は、洗濯液の限度の温度を表している。　　　　　　　　＜旧表示＞

　　　　　　　　　　　　　　禁止は、×で表している。

違うこと・・・新表示では、洗濯の絵表示で、洗濯機も手洗いも同じ絵を使って示

している。

　　　　　　　　　　　　　　洗濯の強さ・弱さは、基本の記号の下に付ける線（―）の数で示している。

アイロンの温度は、数字ではなく点（・）の数で示している。

　　　　　　　　　　　　　　干し方は、衣服をどのように干すかを、線で表している。

　　　　　　　　　　　　　　日陰の場合は、四角（□）の左上に斜めの線を入れて表している。

1. 新しい表示に変わったことで、よいことはどのようなことだろう。思ったことを書こう。

1. 衣服の手入れを行うときに、これから工夫していきたいと思ったことを書こう。

５　備考

　・2016年12月１日よりJIS（日本産業規格）による衣服の最適な手入れ方法を示す取り扱い表示は、変更されている。現在児童が着用している衣服には、「日本だけで使われていた表示である旧表示」と「世界共通である新表示」が混在していることを、実物を提示するなどして授業で触れるとよい。

　・ミニ知識として、授業の中で、新表示は「洗濯」→「漂白」→「乾燥」→「アイロン」→「クリーニング」の順に並んでいることを伝えておくことで、児童は調べたことを生活に生かすことができる。

　・日常生活の中にある表示やマークの情報が、生活をよりよくすることに関係していることが実感できれば、食生活や住生活においても家庭学習のテーマとして設定することもできる。

（商品の表示、品質マーク、環境についてのマーク）